

>>>> 特許登録 <<<<

熱線ろう付け装置及び熱線ろう付け方法

県と株式会社信栄製作所が、共同で特許出願していました「熱線ろう付け装置及び熱線ろう付け方法」が、平成21年9月4日に特許登録（特許第4366697号）されました。

本発明は、集光された赤外線またはレーザー光等の熱線をピンポイントで照射することで、短時間・短工程で安定したろう付けができる熱線ろう付け装置及び熱線ろう付け方法を提供します。

必要な部分だけを短時間で効率よく加熱できることが特徴です。そのため、従来の炉中ろう付けで問題となっていた、長時間の加熱による酸化や変質などの材質劣化を抑制したろう付けが短時間で可能となります。

醸造酢の製造法

県が特許出願していました「醸造酢の製造法」が、平成21年12月11日に特許登録（特許第4418919号）されました。

本発明は、魚節の製造で副生する煮熟液を原料とした醸造酢の製造法を提供します。煮熟液はその特有の臭みから再利用の範囲が限られていましたが、発酵をとおして醸造酢を製造することで、その臭みを抑えることができます。また、刺激臭が少なく、酸味がまろやかで旨味のある醸造酢を製造することができます。煮熟液が魚由来のタンパクを多く含んでいることから、一般の醸造酢に比べてタウリン、グルタミン酸、必須アミノ酸を多く含んでいることが特徴としてあげられます。

鍛造工具の設計方法及び鍛造工具

県と株式会社ユニオン精密が共同で特許出願していました「鍛造工具の設計方法及び鍛造工具」が、平成21年12月25日に特許登録（特許第4428581号）されました。

本発明は、安価で簡易な構成で、疲労破壊を抑制し、長時間の連続使用を可能とした鍛造工具を提供します。鍛造金型の構成は、鍛造にて成形される鍛造品の成形穴を有するダイスと、ダイスに対向して配置される鍛造工具とを備え、ダイスの成形穴に鍛造品の素材を配置し、鍛造工具の押圧部により素材を押圧して鍛造品を成形するにあたり、鍛造工具内部に、押圧部の弾性変形を積極的に促進し、たわますことで鍛造時の衝撃による応力を分散・吸収させる空間部を形成してあります。

